

2. MASH 大阪予防介入の効果評価調査(第1回フォローアップ調査)

MASH 大阪では、1999年ベースライン調査によるニーズアセスメントを行い、予防啓発モデルの構築、啓発モデルに沿った介入プログラムを立案し、実施してきた。その予防啓発プログラムの効果を評価するために、2000年7月に北区堂山町のクラブ(ベースライン調査と同じ)の協力を得てフォローアップ調査を実施した。ここでは、1999年ベースライン調査と2000年フォローアップ調査について、MASH 大阪との関わり度別に分析した結果を報告する。

(調査方法)

調査は筆記用具付きのボードにアンケート用紙をはさんだものを用意し、午後8時の開店時から午前3時まで同店に入場してくるすべての顧客に調査を依頼、同意を得た者のみに調査用紙を渡した。フォローアップ調査では配布数624枚、回収数624枚、有効回答数617枚(回収率98.9%)で、うち584名のMSMより回答を得た。調査にはのべ30名ほどのボランティア協力があつた。

分析では、1999年ベースライン調査および2000年フォローアップ調査の回答者について、MASH 大阪のプログラムへの関わり度別に分類し、HIV/STD 関連知識・性行動・受検行動に関する差異を観察した。MASH 大阪への関わり度は、MASH 大阪主催のSTD 勉強会やSWITCH2000の予防相談検査(以下、SWITCH-B)に参加した者を「参加群」、ホームページ、ゲイ雑誌の記事、ポスター等の情報に接触した者を「情報群」、MASH 大阪に全く接触がなかった「未接触群」に分類した。

(調査結果)

1) MASH 大阪プログラムへの関わり

1999年調査および2000年調査共に、回答者の年齢層は20歳代が中心であり、ほぼ同一年齢層から回答が得られたといえる(表2)。また、MASH 大阪への関わり度の分布は、1999年調査では498名中情報群が94名(18.9%)、2000年調査では情報群が269人(46.1%)、参加群が40人(6.8%)で、2000年調査においてMASH 大阪の情報や参加プログラムに接触しているものは著しく増加していることが示された。2000年調査でMASH 大阪に関わった内容を表1に示した。

表1 MASH 大阪への関わり(2000年フォローアップ調査)

項目	回答数	%	項目	回答数	%
MASH大阪の認知度(n=584)	292	50.0	MASH大阪のSTD勉強会 (毎月定例)認知度(n=584)	168	28.8
MASH 大阪認知媒体			STD 勉強会 認知媒体		
ポスター	114	39.0	参加した	12	7.1
パンフレット	265	32.2	パンフレット	62	36.9
ゲイ雑誌	94	44.9	ゲイ雑誌	56	33.3
ホームページ	53	18.2	ホームページ	36	21.4
その他	27	9.2	その他	13	7.7
Switch2000 認知度(n=584)	212	36.3			
Switch2000 認知媒体			Switch2000 認知媒体		
フライヤー/パンフ	143	67.5	HIV/STD相談・検査に参加	8	3.8
ゲイ雑誌の広告	79	37.3	STD勉強会に参加	5	2.4
友達や人づて	48	22.6	その他	2	0.9
ゲイアート	10	4.7			
ダンスパーティ	22	10.4			
ホームページ	26	12.3			

2) 利用施設等について

サウナ系ハッテン場の利用率は1999年調査では40.8%、2000年調査では34.8%とほぼ同率で、MASH 大阪への関わり度別に差異は見られなかった。しかし、ゲイナイト等のイベント、ビデオボックス系ハッテン場およびマンション系ハッテン場(2000年調査)、サークルイベント等は情報群、参加群に利用率が高いことが示された(表3)。

また、インターネット等利用状況は、1999年調査では情報群と未接触群で差異は無かったが、2000年調査では未接触群に比して情報群、参加群は利用率が高かった。これは今後のMASH大阪の活動を広報する媒体としてインターネットを積極的に活用することが望ましいことを示唆している。

表2 MASH大阪への関わり度と年齢分布

MASH大阪への関わり	合計	年齢5階級				
		20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35歳以上
1999/全体 N=498	n %	30 6.0	188 37.8	170 34.1	70 14.1	31 6.2
2000/全体 N=584	n %	39 6.7	205 35.1	223 38.2	76 13.0	35 6.0
1999/未接触群 N=392	n %	28 7.1	153 39.0	133 33.9	53 13.5	20 5.1
2000/未接触群 N=249	n %	16 6.4	83 33.3	96 38.6	36 14.5	16 6.4
1999/情報群 N=94	n %	1 1.1	35 37.2	32 34.0	13 13.8	10 10.6
2000/情報群 N=269	n %	21 7.8	96 35.7	104 38.7	32 11.9	14 5.2
2000/参加群 N=40	n %	1 2.5	17 42.5	16 40.0	3 7.5	3 7.5

1) 年齢不明・無回答は掲載していない

表3 MASH大阪への関わり度と利用施設(この1年間)

MASH大阪への関わり		ゲイナイト/ねるとんイベント	ゲイホール/映画館/ハッテン映画館	サウナ系ハッテン場	マンション系ハッテン場	ビデオBOX系ハッテン場	出張ホスト	ゲイ・レス・ビアンサークルイベント
1999/全体 N=498	n %	342 68.7	24 4.8	201 40.4	123 24.7	132 26.5	21 4.2	59 11.8
2000/全体 N=584	n %	391 67.0	31 5.3	203 34.8	149 25.5	93 15.9	12 2.1	39 6.7
1999/未接触群 N=392	n %	261 66.6	19 4.8	155 39.5	100 25.5	94 24.0	16 4.1	43 11.0
2000/未接触群 N=249	n %	142 57.0	15 6.0	86 34.5	53 21.3	43 17.3	8 3.2	8 3.2
1999/情報群 N=94	n %	72 76.6	5 5.3	36 38.3	19 20.2	30 31.9	5 5.3	16 17.0
2000/情報群 N=269	n %	202 75.1	14 5.2	100 37.2	76 28.3	39 14.5	3 1.1	23 8.6
2000/参加群 N=40	n %	32 80.0	1 2.5	12 30.0	14 35.0	8 20.0	1 2.5	6 15.0

3) AIDS関連知識について

1999年調査では、「エイズ治療の延命効果」「STD感染とHIV感染リスクの関係」などが低率であることを示した。2000年調査の結果を見ると、これらの項目の正答率が参加群、情報群共に高率であった(表4)。「性病に罹っていると必ず症状がでる」の正答率も同様のことが示され、特に参加群に正答率の向上が目立った。

4) コンドーム使用とコンドーム使用のイメージについて

フェラチオでのコンドーム使用で、「全く使用しない」の回答率は、未接触群に比べて参加群、情報群が低率で、参加群、情報群では「使用/不使用」の回答が多くなっている。この傾向は相手の特定、不特定に関わらず観察された(表5、6)。しかし「必ず使用する」の回答率には変化がなかった。

アナルセックスの経験率は2000年調査では高率になっていた(表7)。これは1999年調査で不明の回答が多かったのに対して2000年調査では、性行動に関して回答する者が増えたため、MASH大阪への取り組みへの理解による有効回答の向上を示唆しているものと思われる。

コンドーム使用状況を見ると、特定の相手とのアナルセックスでは、MASH大阪への未接触群は「全く使わない」の回答率が1999年調査、2000年調査共に33%と同率であったが、情報群、参加群では低率を示した(表8)。このことは不特定相手とのセックスでも同様であった(表9)。しかし「必ず使用する」はMASH大阪への関わりの有無によって変化がなかった。MASH大阪への参加群、情報群では「使用/不使用」の回答が多く、恐らく「全く使わない」から「使用することがある」にシフトしたものと思われる。

コンドームをつけて欲しいといわれた時のイメージでは、参加群、情報群が未接触群に比べて「悪いイメージ」

の回答率が低く、「良い印象」、「なんとも思わない」が高率になっていた(表 10)。「ハッテン場でのゆきづりの相手とのセックスではコンドームを必ず使う」は参加群、情報群が有意に高率であった。また、「特定の人とのセックス時にコンドームを使用しない」の回答は、1999年調査に比べて2000年調査では低くなった。しかし、参加群、情報群の回答は関わりなし群に比べて「使用しない」の回答が高かった。これは、コンドームを使用することについて相手との関係性の中でむずかしさを示しているものと思われる。このことは、「好きな人にコンドームをつけてと言いくい」の回答は未接触に比べ参加群が高く、「付き合いが長くなるとコンドームを使わなくなる」「相手にコンドームを使って欲しいと言えないことがある」「その場のムードで使わないことがある」などの回答率も参加群が高率であったことから示唆される。

おそらく MASH 大阪の STD 勉強会や SWITCH-B 等には、相手との関係性の中でセーフターセックスへの行動変容が困難であると感じているものが参加してきているものと思われる。したがって、今後の MASH 大阪のプログラムにはこうしたニーズに対応したものを考慮する必要があると思われる。

5) HIV 検査・感染不安・検査場の認知等について

過去1年間にエイズ検査に行こうと思った者は参加群、情報群を合計すると 60.2%(183/304 人)で、実際に受検した者は 33.6%(102/304 人)であった。一方で、MASH 大阪への未接触群ではそれぞれ 53.2%、19.0%で参加群、情報群に比べて受検率は低かった(表 11)。「HIV 感染の不安を感じたことがある」の回答は、MASH 大阪への関わりに関係なく、ほぼ半数の者が感染不安を感じており、MASH 大阪への関わりが受検行動のきっかけになっているものと思われる。

過去1年間の HIV 抗体検査受検率は 1999 年調査(20.3%)に比べて 2000 年調査(25.9%)はやや高くなっていた。しかし、MASH 大阪への未接触群はほぼ同率(各々、17%、19%)で、情報群は 30.3%と 2 倍近い受検率であった。受検機関は 1999 年調査、2000 年調査で差異はないが 2000 年 5 月(3日間)の SWITCH2000 予防相談・検査は 12.6%で夜間/休日のエイズ検査の利用率を上回っていた(表 12)。また、居住地別には、大阪、近畿地域で受検率が上昇していた。さらに、感染不安との関連ではその有無に関わらず 2000 年には受検率が上昇し、この 1 年で HIV 検査を受け様と思っていた者の内 38.6%が受検しており、SWITCH2000 の検査を 4.2%が受けていた。SWITCH2000 にはこの 1 年の受検を「わからない」と回答した者でも 5.1%が受検しており、他の検査機関に比べて利用率が高かった。

大阪の夜間エイズ検査機関の場所認知率は、MASH 大阪への関わりを有した者で高率になっていたが、MASH 大阪認知率が1年間で 50%に向上したことに比べると情報伝達は未だ十分とは言えず、コミュニティへの情報伝達の積極化が望まれる。

(まとめ・考察)

フォローアップ調査では効果評価分析に耐える調査数として 600 人を設定したところ、MASH 大阪スタッフは当日ボランティアを募集して協力を得ながらこの調査数を可能にした。従来、MSM においてこのような調査数を得るのは困難であったが、協働による成果といえる。上述したように、少なくとも MASH プログラムに参加した者、情報に触れた者は、HIV/STD 関連の知識が高まり、セーフターセックスも全く使わないから使用する方へシフトするような傾向が示されていた。しかし、コンドームへのイメージを変え、使うことへの方向性があっても、対パートナーとの関係性から「使用することを伝える」ことの困難性が見られた。

MASH 大阪では、昨年のベースライン調査をもとに具体的なプログラムを実施した。毎月定例の STD 勉強会は常にテーマに工夫をこらし、自己評価、参加者の意見を加えつつそのスキルの向上は目覚ましい。また、base ment-gはエンタテイメント色を有しながら MASH ベネフィット/啓発イベント・パーティとしてコミュニティに実績を残しつつある。他のコンドーム大作戦等も含めて、こうした個々のプログラムの効果評価を見るためには、このクラブイベント参加者の調査のみでは充分とは言えない。今後は、この調査と平行してインタビューによる質的調査、コホート調査、実験疫学的調査などを加えていくことが必要と考える。また、現在 STD 勉強会、コンドーム大作戦、ボランティアリクルートにおいては、それ自身をプログラム化すること、後々の後輩や他の地域での教育研修に役立つものにしていくことが、望まれる。

過去1年間の HIV 抗体検査受検率は 1999 年調査(20.3%)に比べて 2000 年調査(25.9%)は 5%高い割合であった。この受検率は MASH 大阪への未接触群ではほぼ同率(各々、17%、19%)で、情報群はその 2 倍に近い 30.3%と高い受検率であった。このことは、大阪の夜間検査の場所認知率が高まっていたこと、SWITCH2000 での予防相談・検査などゲイフレンドリーな環境での受検機会が提供されたことなどが影響しているものと思われる。受検機関として SWITCH2000 予防相談・検査を 12.6%が利用しており、夜間/休日のエイズ検査の利用率を上回っていた。この検査のニーズが MSM に高かったことを示唆している。

MASH 大阪認知率が1年間で 50%になった。調査対象のバイアスの点から MSM 全体の認知率とは言いがたいが、極めて早い速度で認知された。こうした状況からこれまでの啓発活動を振り返ると、グループレベル、個人

レベルでの啓発には一部効果が見られるものの、コミュニティ全体への啓発効果は見られなかった。MASH 大阪が具体的なプログラム目標を設定して1年が過ぎたが、今後の啓発介入を考えた場合、プログラム毎に伝えたいメッセージと達成目標を明確にし、また各々の情報伝達方法を工夫し、対個人レベル、対グループレベル、対コミュニティレベルでの情報介入の積極化が望まれる。

今後の介入評価においては具体的にプログラム内容について認知率、行動変容等をとらえるように、質問内容を工夫する予定である。

表4-1 MASH大阪への関わりとAIDSの知識正答率

MASH大阪への関わり		新しい抗エイズ薬によって延命治療が可能になったと思う	健康に見えてもHIVに感染していることがある	通常のHIV抗体検査では感染後2-3日で感染が分かる	注射器の回し打ちはHIV感染の可能性がある	どの性交渉でも、体液との接触でHIV感染の危険性がある	性病にかかっていると必ず症状が出る	性病にかかっているとHIVに感染しやすい
1999/全体 N=498	n %	293 58.8	476 95.6	410 82.3	482 96.8	438 88.0	- -	142 28.5
2000/全体 N=584	n %	358 61.3	550 94.2	488 83.6	552 94.5	513 87.8	394 67.5	291 49.8
1999/未接触群 N=392	n %	222 56.9	375 96.2	324 83.3	378 96.9	342 88.4	- -	97 25.2
2000/未接触群 N=249	n %	139 55.8	234 94.0	206 82.7	241 96.8	216 86.7	158 63.5	111 44.6
1999/情報群 N=94	n %	63 67.0	91 96.8	78 83.0	93 98.9	85 90.4	- -	37 39.4
2000/情報群 N=269	n %	171 63.6	259 96.3	232 86.2	257 95.5	244 90.7	200 74.3	144 53.5
2000/参加群 N=40	n %	35 87.5	38 95.0	34 85.0	36 90.0	35 87.5	30 75.0	25 62.5

表4-2 MASH大阪への関わりとAIDSの知識正答率

MASH大阪への関わり		蚊や他の虫にさされるとHIV感染の可能性がある	コンドームの使用はHIV感染を予防する	コンドームの使用はSTD感染を予防する	フェラチオでも性病に感染することがある	保健所の無料・匿名HIV検査	大阪には無料・匿名の夜間エイズ検査機関がある
1999/全体 N=498	n %	406 81.5	- -	- -	- -	446 89.6	347 69.7
2000/全体 N=584	n %	457 78.3	529 90.6	492 84.2	517 88.5	512 87.7	421 72.1
1999/未接触群 N=392	n %	315 81.4	- -	- -	- -	345 88.9	254 65.6
2000/未接触群 N=249	n %	186 74.7	232 93.2	210 84.3	216 86.7	209 83.9	160 64.3
1999/情報群 N=94	n %	80 85.1	- -	- -	- -	91 96.8	84 89.4
2000/情報群 N=269	n %	222 82.5	244 90.7	228 84.8	253 94.1	248 92.2	217 80.7
2000/参加群 N=40	n %	34 85.0	38 95.0	36 90.0	36 90.0	37 92.5	29 72.5

表5 MASH大阪関わり度別・特定相手とフェラチオ(した)でのコンドーム使用状況

MASH大阪への関わり	特定相手とフェラチオ(した)でのコンドーム使用状況				合計
	全く使わない	まちまち	必ず使用する	無回答	
1999/全体	290 69.4	75 17.9	25 6.0	28 6.7	418 100
2000/全体	327 75.9	66 15.3	16 3.7	22 5.1	431 100
1999/未接触群	243 71.5	52 15.3	20 5.9	25 7.4	340 100
2000/未接触群	143 76.9	26 14.0	5 2.7	12 6.5	186 100.0
1999/情報群	47 60.3	23 29.5	5 6.4	3 3.8	78 100
2000/情報群	163 77.3	31 14.7	10 4.7	7 3.3	211 100
2000/参加群	21 61.8	9 26.5	1 2.9	3 8.8	34 100

各群間に有意差あり(カイ自乗(5群)、 $p<0.001$)

表6 MASH大阪関わり度別・不特定相手とフェラチオ(した)でのコンドーム使用状況

MASH大阪への関わり	不特定相手とフェラチオ(した)でのコンドーム使用状況				合計
	全く使わない	まちまち	必ず使用する	無回答	
1999/全体	173 66.8	47 18.1	25 9.7	14 5.4	259 100
2000/全体	217 67.2	64 19.8	23 7.1	19 5.9	323 100
1999/未接触群	142 68.3	36 17.3	19 9.1	11 5.3	208 100
2000/未接触群	98 69.5	22 15.6	9 6.4	12 8.5	141 100
1999/情報群	31 60.8	11 21.6	6 11.8	3 5.9	51 100
2000/情報群	102 67.5	34 22.5	10 6.6	5 3.3	151 100
2000/参加群	17 54.8	8 25.8	4 12.9	2 6.5	31 100

各群間に有意差あり(カイ自乗(5群)、 $p<0.001$)

表7 MASH大阪関わり度別・アナルセックス経験率

MASH大阪への関わり	アナル経験			合計
	アナルセックスをする	アナルセックスをしない	不明	
1999/全体	253 52.1	107 22.0	126 25.9	486 100
2000/全体	334 59.9	177 31.7	47 8.4	558 100
1999/未接触群	207 52.8	86 21.9	99 25.3	392 100
2000/未接触群	149 59.8	83 33.3	17 6.8	249 100
1999/情報群	46 48.9	21 22.3	27 28.7	94 100
2000/情報群	159 59.1	83 30.9	27 10.0	269 100
2000/参加群	26 65.0	11 27.5	3 7.5	40 100

各群間に有意差あり(カイ自乗(5群)、 $p<0.001$)

表8 MASH大阪関わり度別・特定相手とのアナルセックスでのコンドーム使用状況

MASH大阪への関わり	特定アナルでのコンドーム使用状況			合計
	全く使わない	まちまち	必ず使用する	
1999/全体	75 29.1	79 30.6	104 40.3	258 100
2000/全体	34 20.2	72 42.9	62 36.9	168 100
1999/未接触群	69 32.9	63 30.0	78 37.1	210 100
2000/未接触群	43 32.6	34 25.8	55 41.7	132 100
1999/情報群	6 12.5	16 33.3	26 54.2	48 100
2000/情報群	32 22.1	60 41.4	53 36.6	145 100
2000/参加群	2 8.7	12 52.2	9 39.1	23 100

各群間に有意差あり(カイ自乗(5群)、 $p<0.001$)

表9 MASH大阪関わり度別・不特定相手とのアナルセックスでのコンドーム使用状況

MASH大阪への関わり	不特定アナルでのコンドーム使用状況			合計
	全く使わない	まちまち	必ず使用する	
1999/全体	32 16.2	50 25.3	116 58.6	198 100
2000/全体	12 9.9	56 46.3	53 43.8	121 100
1999/未接触群	28 18.5	37 24.5	86 57.0	151 100
2000/未接触群	24 26.7	25 27.8	41 45.6	90 100
1999/情報群	4 8.5	13 27.7	30 63.8	47 100
2000/情報群	12 11.5	46 44.2	46 44.2	104 100
2000/参加群		10 58.8	7 41.2	17 100

各群間に有意差あり(カイ自乗(5群)、 $p<0.001$)

表10-1 MASH大阪への関わりとコンドーム使用のイメージ

MASH大阪への関わり	n %	特定の人のSEXにはあまりコンドームを使用しない	好きな人には「コンドームをつけて」と言にくい	「コンドームをつけてほしい」と言われると			ハッセン場等での行きずりのSEXにはコンドームを使う	相手が望めばコンドームを使用する
				悪い印象がする	良い印象がする	何も感じない		
1999/全体 N=498	n %	235 47.2	125 25.1	40 8.0	154 30.9	275 55.2	189 38.0	276 55.4
2000/全体 N=584	n %	199 34.1	119 20.4	45 7.7	195 33.4	340 58.2	278 47.6	337 57.7
1999/未接触群 N=392	n %	197 50.3	110 28.1	37 9.4	122 31.1	231 58.9	148 37.8	229 58.4
2000/未接触群 N=249	n %	84 33.7	55 22.1	27 10.8	68 27.3	133 53.4	103 41.4	145 58.2
1999/情報群 N=94	n %	38 40.4	15 16.0	3 3.2	32 34.0	44 46.8	41 43.6	47 50.0
2000/情報群 N=269	n %	94 34.9	51 19.0	14 5.2	110 40.9	171 63.6	151 56.1	165 61.3
2000/参加群 N=40	n %	18 45.0	12 30.0	3 7.5	14 35.0	34 85.0	22 55.0	25 62.5
カイ自乗(5群)		**	*	*	*	***	***	

表10-2 MASH大阪への関わりとコンドーム使用のイメージ

MASH大阪への関わり		付き合いが長くなる とコンドームを使わ なくなる	相手の見た目 でコンドームを使 うかどうか決める 事がある	相手がHIV陰 性と知っている 場合はコンド ームを使わない	コンドームを使 おうと思っても、 その場のムード で使わないこと がある	相手にコンド ームを使ってほ しいと言えない ことがある	コンドームが 手元があれば 使うようにす る
1999/全体 N=498	n %	85 17.1	66 13.3	75 15.1	- -	- -	- -
2000/全体 N=584	n %	121 20.7	92 15.8	104 17.8	156 26.7	111 19.0	226 38.7
1999/未接触群 N=392	n %	71 18.1	55 14.0	63 16.1	- -	- -	- -
2000/未接触群 N=249	n %	46 18.5	36 14.5	39 15.7	71 28.5	43 17.3	78 31.3
1999/情報群 N=94	n %	14 14.9	11 11.7	12 12.8	- -	- -	- -
2000/情報群 N=269	n %	60 22.3	48 17.8	53 19.7	68 25.3	54 20.1	126 46.8
2000/参加群 N=40	n %	14 35.0	8 20.0	12 30.0	16 40.0	14 35.0	18 45.0
カイ自乗(5群)							**

表11-1 MASH大阪への関わりとHIV検査/感染不安/関心

MASH大阪への関わり		HIV抗体検査 (過去1年間)	HIV検査を 受けに行 こうと思 った(過 去1年)	近い内に HIV検査 を受け に行こう と思っ ている	HIV感染 不安を 感じた ことが ある	周囲に HIV感 染者/ AIDS 患者 が いる	AIDSに 関心 を持 っ て い る		
							はい	いいえ	わから ない
1999/全体 N=498	n %	97 19.5	- -	- -	224 45.0	87 17.5	395 79.3	17 3.4	75 15.1
2000/全体 N=584	n %	151 25.9	308 52.7	227 38.9	269 46.1	107 18.3	457 78.3	16 2.7	84 14.4
1999/未接触群 N=392	n %	67 17.1	- -	- -	173 44.1	52 13.3	312 79.6	13 3.3	67 17.1
2000/未接触群 N=249	n %	47 18.9	123 49.4	87 34.9	104 41.8	33 13.3	189 75.9	7 2.8	51 20.5
1999/情報群 N=94	n %	30 31.9	- -	- -	51 54.3	34 36.2	83 88.3	3 3.2	8 8.5
2000/情報群 N=269	n %	81 30.1	156 58.0	124 46.1	140 52.0	56 20.8	232 86.2	7 2.6	28 10.4
2000/参加群 N=40	n %	21 52.5	27 67.5	15 37.5	23 57.5	16 40.0	36 90.0	2 5.0	2 5.0
カイ自乗(5群)		***	*	*		***	*		

表11-2 MASH大阪への関わり度と検査場所認知/MASH認知等/STD既往

MASH大阪への関わり		大阪の夜間エイズ検査機関の場所認知度	MASH大阪の認知度	STD勉強会の認知度	Switch2000認知度	インターネット/パソコン通信利用状況(はい)	STDにかかったことがある(この1年間)
1999/全体 N=498	n %	149 29.9	94 18.9	- -	- -	48/79 60.8	- -
2000/全体 N=584	n %	151 25.9	292 50.0	168 28.8	212 36.3	226 38.7	40 6.8
1999/未接触群 N=392	n %	90 23.0	0 0.0	- -	- -	36 61.0	- -
2000/未接触群 N=249	n %	38 15.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	91 36.5	13 5.2
1999/情報群 N=94	n %	58 61.7	94 100.0	- -	- -	12 60.0	- -
2000/情報群 N=269	n %	94 34.9	252 93.7	137 50.9	172 63.9	109 40.7	22 8.2
2000/参加群 N=40	n %	17 42.5	40 100.0	31 77.5	40 100.0	21 52.5	5 12.5
カイ自乗(5群)		***	***	***	***	**	

表12 居住地別のMSMにおけるHIV抗体検査受検状況(過去1年間)

		全体	大阪府内	近畿地域 (除く大阪)	他の地域	有意差
		1999年調査	回答数	522	325	
	受検数	100	62	21	17	
	%	19.2	19.1	15.1	29.3	
2000年調査	回答数	560	373	137	50	ns
	受検数	151	100	42	9	
	%	27.0	26.8	30.7	18.0	

表13 HIV抗体検査受検者の検査機関(過去1年間)

	医院や病院での検査	保健所での検査	夜間/休日のエイズ検査	東京の南新宿検査相談所の検査	海外でのエイズ検査	MASH大阪・臨時検査*	その他
1999年調査(n=100)	31.0	49.0	11.0	0.0	3.0	--	1.0
2000年調査(n=151)	29.1	47.0	11.9	1.3	2.0	12.6	0.0

* MASH大阪(厚生省HIV社会疫学研究班と大阪ゲイ・ボランティア、行政との協働プロジェクト)が実施。

表14 MSMにおけるHIV感染不安等とHIV抗体検査受検行動(過去1年間のHIV抗体検査受検)

調査年	1999			2000		
	ある	ない	合計	ある	ない	合計
HIV感染不安の有無	224	200	424	267	234	501
HIV抗体検査(この1年間)	58	31	89	88	47	135
%	25.9	15.5	21.0	33.0	20.1	26.9
受検機関						
医院や病院での検査	16 7.1	15 7.5	31 7.3	18 6.7	20 8.5	38 7.6
保健所での検査	36 16.1	11 5.5	47 11.1	50 18.7	17 7.3	67 13.4
南新宿検査相談所の検査	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.7	0 0.0	2 0.4
夜間/休日のエイズ検査	7 3.1	4 2.0	11 2.6	14 5.2	0 0.0	14 2.8
MASH大阪・SWITCH2000での 臨時相談検査	-	-	-	10 3.7	6 2.6	16 3.2
海外でのエイズ検査	1 0.4	1 0.5	2 0.5	1 0.4	1 0.4	2 0.4
それ以外の検査	0 0.0	1 0.5	1 0.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0

表15 この1年間のHIV検査受検意識と受検行動(2000年フォローアップ調査)

		HIV検査を受けに行こうと思ったこと(この1年間)			合計
		ある	ない	わからない	
		306	156	59	521
HIV抗体検査(この1年間)	n	118	12	5	135
	%	38.6	7.7	8.5	25.9
受検機関					
医院や病院での検査	n	32	5	1	38
	%	10.5	3.2	1.7	7.3
保健所での検査	n	59	4		63
	%	19.3	2.6	0.0	12.1
夜間/休日のエイズ検査	n	16	1		17
	%	5.2	0.6	0.0	3.3
南新宿検査相談所の検査	n	1	1		2
	%	0.3	0.6	0.0	0.4
MASH大阪・SWITCH2000での 臨時相談検査	n	13	1	3	17
	%	4.2	0.6	5.1	3.3
海外でのエイズ検査	n	0	2	1	3
	%	0.0	1.3	1.7	0.6
それ以外の検査	n	0	0	0	0
	%	0.0	0.0	0.0	0.0

Ⅲ. 東京地域におけるHIV/STD感染予防啓発の推進に関する研究(MASH東京)

東京地域におけるMSMへのHIV感染予防に関わってきた数名の当事者との間で具体的な予防介入プロジェクトのありかた等について、2000年4月から検討を重ねた。その結果、ゲイボランティアと疫学研究者との協働プロジェクトとしてMASH東京を6月に結成することになった。東京地域のMSMに対して、「性の健康」の視点からHIV/STD感染の予防に向けた行動変容を促すための予防啓発介入を行なうことを目標とし、啓発ニーズの評価を行なうためにベースライン調査を実施し、また平行して啓発活動の準備を進めてきた。ここでは、MASH東京の設立経過、2000年に実施した予防介入プログラム、およびベースライン調査で得られた成果を報告する。

a. 東京地域における HIV/STD 感染の予防介入

佐藤未光、井戸田一朗、岡崎一裕、長谷川博史、橋本哲志(MASH東京)、鬼塚直樹、市川誠一、木村博和、

(はじめに)

東京は HIV 感染者/AIDS 患者報告数が全国で最も多く、その半数が同性間の性感染である。都内にはゲイを対象としたバーやショップなどの商業施設が充実しており全国から多くの MSM が集まるため、以前から MSM を対象とした HIV/STD 予防啓発活動が NGO/CBO ごとに実施されてきている。しかし新規感染者は増加傾向にあり、早急に効果的な対策を講じる必要がある。

(MASH 東京設立の経緯)

東京では以前より MSM に対する HIV/STD の予防啓発活動をしている NGO/CBO があり、それぞれ独自の展開を見せていたが、平成 7 年度より一部の NGO/CBO と厚生省疫学研究班との共同体制による疫学調査、予防介入が始まった。特に HIV をはじめ STD 感染の機会が多いであろう商業用ハッテン場(顧客同士が性行為を目的として利用する商業施設)における対策(コンドーム使用状況調査、コンドームキットの配布、ハッテン場経営者を対象とした講習会など)は新宿保健所とも共同して大きな成果を上げた。また MSM を対象にした HIV 感染予防をテーマにした国際ワークショップの開催、行動疫学調査など、MSM における HIV/STD 感染予防への準備が進められてきていた。しかし東京における HIV 感染予防への CBO や NGO と研究班との共同体制はなかなか足並みが揃わず、暗礁に乗り上げた形となっていた。平成 12 年 3 月、一部の NGO 関係者、ゲイ・コミュニティ関係者、医療従事者、疫学研究者および HIV/STD 感染予防に関心のある個人が集まり HIV 感染予防の推進について意見交換し、その経過で協働プロジェクトとしての MASH 東京を設立することになった。

(MASH 東京の概要)

MSM を対象とした、性に関わる健康の増進を支援することが MASH 東京設立の目的であるが、緊急課題として東京/新宿 2 丁目ゲイ・コミュニティを利用するゲイを中心に HIV/STD 感染の予防活動を行うこととした。

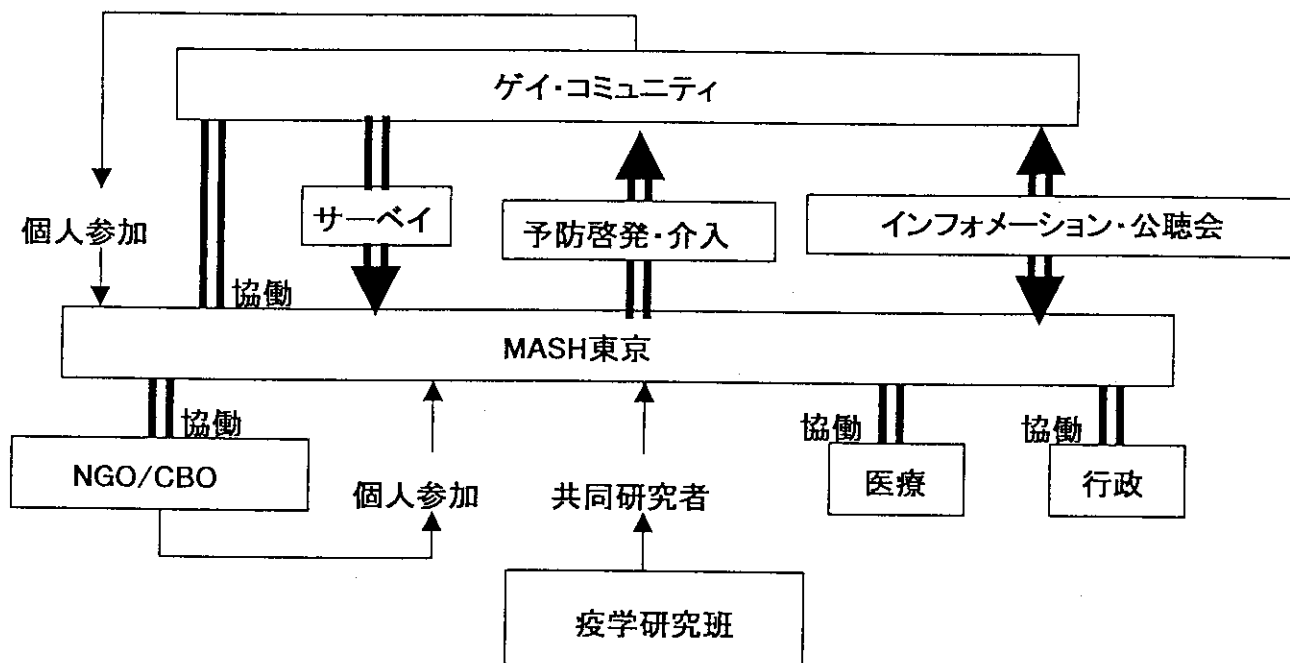
MASH 東京を設立するにあたり、今までの東京での共同体制に対する反省から、MASH 東京が東京のゲイ・コミュニティに対してどのような立場にあるべきなのかということについて、特に意見交換をした。一概にゲイ・コミュニティといっても新旧多種多様にとみ、様々な立場にある人々が属している。特に商業ベースであるコミュニティでは様々な利害関係があり、また多くの既存の団体や NGO/CBO もそれぞれ独自の展開を見せている。その中で緊急に立ち上げるべき形態として、MASH 東京は個人をベースとした協働プロジェクトという形で設立した(図 1)。既存の各 NGO 関係者も MASH 東京ではその団体からは独立した個人として参加することを基本とし、他の NGO/CBO とは対等な立場で協力体制をとることとした。ただしプロジェクトの参加者は、個人の持つネットワークを利用しながら新しい展開を構築していくことも最大限可能とした。これによりコミュニティ内の利害関係を左右されずに、ゲイ・コミュニティに浸透する活動が展開できることを期待している。厚生省疫学研究班とはその研究手法(疫学調査の内容、方法、分析、評価等)、ネットワーク、資金面等の提供を受けつつ活動の一部において共同体制をとっている。

MASH 東京の活動は 5 本のプログラムから構成される。

- 1) 予防啓発プログラム: HIV/STD 感染予防のための情報提供をする。
- 2) 予防介入プログラム: HIV/STD 感染を防ぐための環境づくりをする。
- 3) 行動疫学サーベイプログラム: 性行動や意識に関する調査を行い、その動向から MASH 東京の活動を評価し還元する。
- 4) コーポレーションプログラム: 医療、行政、各 NGO/CBO と協働して効果的な活動を展開する。
- 5) インフォメーションプログラム: 活動をコミュニティ等へアピールまたは還元する。

しかしこれらのプログラムははっきりと独立したものではなく、また互いに関わり合う部分も大きい。以下に述べるが、具体的な活動を行うときは、いくつかのプログラムを重複した活動になる。MASH 東京プロジェクトの推進のためにはどのプログラムも必要不可欠であり、いずれかに偏ることのないように留意したい。

図1 MASH 東京のネットワーク



(平成 12 年度のプログラムの推進について)

東京での HIV/STD 感染予防活動の推進は急を要するものであるため、平成 12 年度は MASH 東京の組織を構築しながらのプログラム推進であった。MASH 東京は平成 12 年 6 月から、毎月第二火曜日に開催している定例ミーティングを意志決定の場として活動を開始した。

まず、平成 12 年 6 月からは予防啓発プログラムとして「STD 勉強会」を毎月第三日曜日に開催している。各回のテーマおよび参加人数を表に示す(表 1)。当初「STD 勉強会」は MASH 東京の設立スタッフが属している AGP(同性愛者医療・福祉・カウンセリング・教育専門家会議)が開催していたが、MASH 東京が正式に設立された 9 月からは MASH 東京主催、AGP 協力という形で開催している。毎回手法を模索しながらの開催ではあるが、単なる情報提供だけでなく、

回数	月/日	テーマ	参加人数
第 1 回	6/25	STD ってなに?	32 名
第 2 回	7/16	どうしたら染るの?	26 名
第 3 回	8/19	コンドーム大作戦!	20 名
第 4 回	9/16	HIV 感染の今	22 名
第 5 回	10/15	エッチについて考える	16 名
第 6 回	11/19	HIV と共生	18 名
第 7 回	12/17	肝炎について	15 名
第 8 回	1/21	梅毒・淋病・クラミジア	16 名

参加者が自ら積極的に考えることのできる雰囲気を作るように工夫をしている。また最近ではコミュニティや NGO/CBO の方をゲストに招いてトークをして頂き、オープンかつ魅力的な会になるようにしている。「STD 勉強会」はもともと資金がない AGP が主催という名残もあり、そこで集まった募金を運営費に当てている。にもかかわらず幸いながら毎回コンスタントに開催できている理由として、MASH 東京の意向を理解して毎回無料で場所を提供している新宿2丁目のバー「K*O」さんの協力があることを併記する。

東京のクラブイベントにおける行動疫学ベースライン調査は、平成10年から疫学研究班とエイズケアプロジェクトが共同でエイズケアプロジェクト主催のクラブイベント「GRATIA」において行っていた。MASH 東京ではさらに幅広い客層を対象とした行動疫学サーベイプログラムを展開するために、新宿で開催されているクラブイベント「サラリーマンナイト」「NEXT」において12月に調査を行った。イベントにおける調査ボランティアは、それまでの調査にも慣れているエイズケアプロジェクト・スタッフの協力があった。

MASH 東京の活動をコミュニティに浸透させるインフォメーションプログラムとして、ロゴの作製があった。これは平成10年から活動を開始し、MASH 東京と基本概念を共有し、設立にも協力を頂いた MASH 大阪と共通のロゴを使用することになった。このロゴは、エイズケアプロジェクトが以前から街頭などで配布している「セーフターセックスキット」(コンドームとラブオイルがセットになったもの)に併記し、「STD 勉強会」のパンフレットやクラブイベント調査用紙などに掲載し、コミュニティに MASH 東京の存在をアピールする手段として活用している。パンフレットやセーフターセックスキットの配布にはエイズケアプロジェクトのスタッフの協力を受けており、またパンフレットは、新宿二丁目でゲイ・ビジネスを営んでいる人達を中心に組織された HIV 予防啓発活動団体「プロジェクト・コム」に参加しているバーの協力で置かせて頂いている。

これまでの調査でわかってきているニーズの一つとして、HIV/STD 抗体検査を受けやすい環境を提供することがあげられる。MASH 東京では抗体検査に併せて予防相談を行うことにより、リスク低減に向けた予防介入を計画している。これはすでに MASH 大阪で開催されたイベント「SWITCH2000」で導入されている。MASH 東京では、ベースライン調査によるニーズアセスメントを踏まえて、今後の予防介入プログラムを設定していくが、東京地域での感染者の増加からみても HIV 抗体検査環境との関連で予防相談が必要になると考えている。こうした観点から、12月には講師に鬼塚直樹氏(CAPS.UCSF)を迎えて1泊2日の予防相談員研修会を行っている。毎月定期的に相談員の定例会を開催しており、現在18名が相談員研修生として参加している。MASH 大阪の相談員研修とも連携をとりながら、今後の予防相談のあり方について模索していく。

以上が平成12年度の活動の概要であるが、述べてきたように MASH 東京活動はさまざまな NGO/CBO またはゲイ・コミュニティの方々の連携・協力の下に進んでいる。その理由としてももちろん資金不足や人材不足という問題もあるが、重要なのは既存の活動や資源を最大限に生かしつつ足りない部分を MASH 東京が実行していくという考えである。また STD/HIV 感染予防をコミュニティの問題としてとらえてもらうため、できるだけ多くの人が活動に関われるようにするという考えでもある。

(平成13年度の計画)

今後は平成12年度から行っている活動を継続して行っていくのに加えて、保健衛生行政および医療との連携とゲイ・コミュニティへの浸透をベースに、ベースライン調査からのニーズなどに基づいて、さらに予防啓発・介入を拡大していく予定である。具体的には、

- 1) ホームページやポスター、パンフレットなどの広報の開発、
 - 2) ゲイ・コミュニティにおける公聴機関と公開報告会の設置、
 - 3) 商業施設の経営者を対象とした勉強会、
 - 4) ハッテン場への介入方法の開発、
 - 5) 保健所などと連携した予防相談・抗体検査環境の開発、
 - 6) 10代への予防介入アプローチの開発、
- などがあげられる。

b. MASH東京によるMSMへの予防介入の効果評価

木村博和、市川誠一、大屋日登美、佐藤未光、井戸田一朗、長谷川博史、橋本哲志、岡崎一裕

MASH 東京では、予防啓発のニーズアセスメント及び今後進められる予防介入の効果を観察していくために、2000年11月に新宿区内において開催されたパーティイベント参加者を対象にベースライン調査を実施した。このベースライン本調査に先駆けて7月には2回にわたってエイズベネフィットパーティなどで予備調査を実施した。なお、このベースライン調査は MASH 東京に連携協力している AIDS ケアプロジェクトとの協働で行なわれた。ここでは、ベースライン調査の集計結果を報告するが、MASH 東京ではこれらの内容を踏まえて予防啓発目標の設定を検討している。

(調査方法)

東京新宿区にあるクラブ(2店)の協力を得て、11月に行われた夜間のクラブ・イベント参加者に対して質問票調査をおこなった。近年の HIV 感染者報告が若年層で増加していることから、これら若年層の参加の多いと予想されるクラブイベントを調査場所として設定した。質問票はA4両面印刷で、施設の利用、HIV/STD 関連知識、情報源、性行動、HIV 検査受検行動について問うもので、これらは MASH 大阪の質問票に揃えたものである。ボランティアスタッフが開店時から協力店に入場してくる顧客に調査協力を依頼して同意を得た者のみに調査用紙を配布した。有効回答数 493 人で、うち 468 人の MSM より回答を得た。調査には 10 数名のボランティア協力があった。

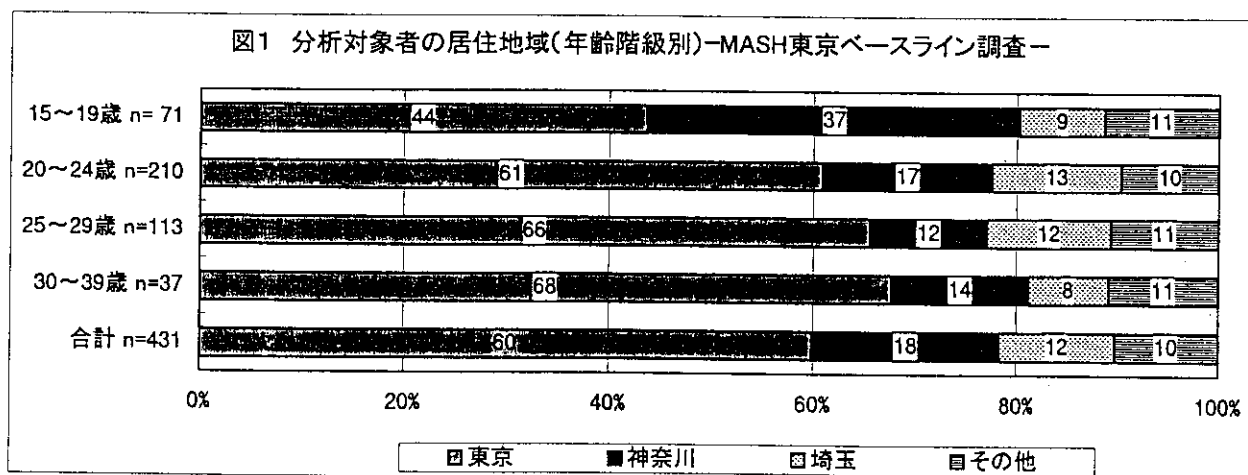
若年層の特徴を把握するために年齢階級別に HIV/STD 関連知識、情報源、性行動、HIV 検査受検行動について分析を行ない、また、感染リスクとの関連を観察するためにコンドーム使用状況別にも同様の分析をおこなった。なお、回答者の重複を避けるために、本質問票への回答が初めての者だけを分析対象とした。

(調査結果)

1) 対象者の属性

MSM468人の年齢分布は15-19歳81人(17.3%)、20-24歳221人(47.2%)、25-29歳122人(26.1%)、30-34歳34人(7.3%)、35歳以上10人(2.1%)で、主に20歳代層を中心とした調査となったが、15-19歳の層についても評価しうる回答数を得ることが出来た。なお、40歳以上の回答者数が少ないので、以下の分析では39歳以下でセックスの経験を有した431人を対象とした。

年齢階級別居住地分布を図1に示した。15-19歳層は東京が約半数で神奈川、埼玉の近県在住もほぼ同率で、20歳以上の年齢層に比べて近県在住が多かった。新宿2丁目はゲイタウンとして知られており、MASH 東京はこの地域を中心とした予防啓発を計画している。今回の回答者の内、同地域に月に2-3回以上訪れる者はおよそ70%であった。



2) 各種の施設利用について

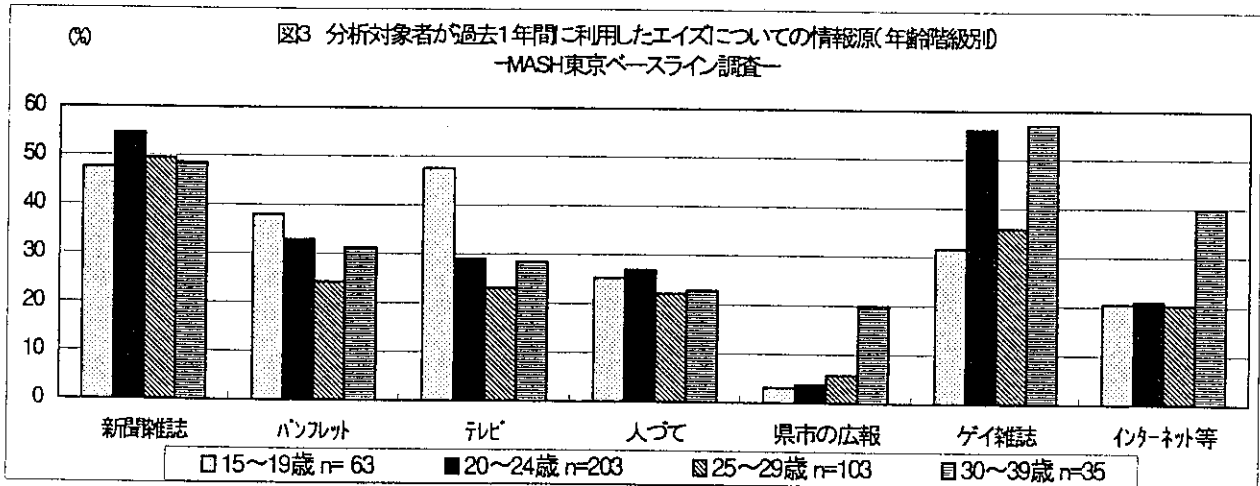
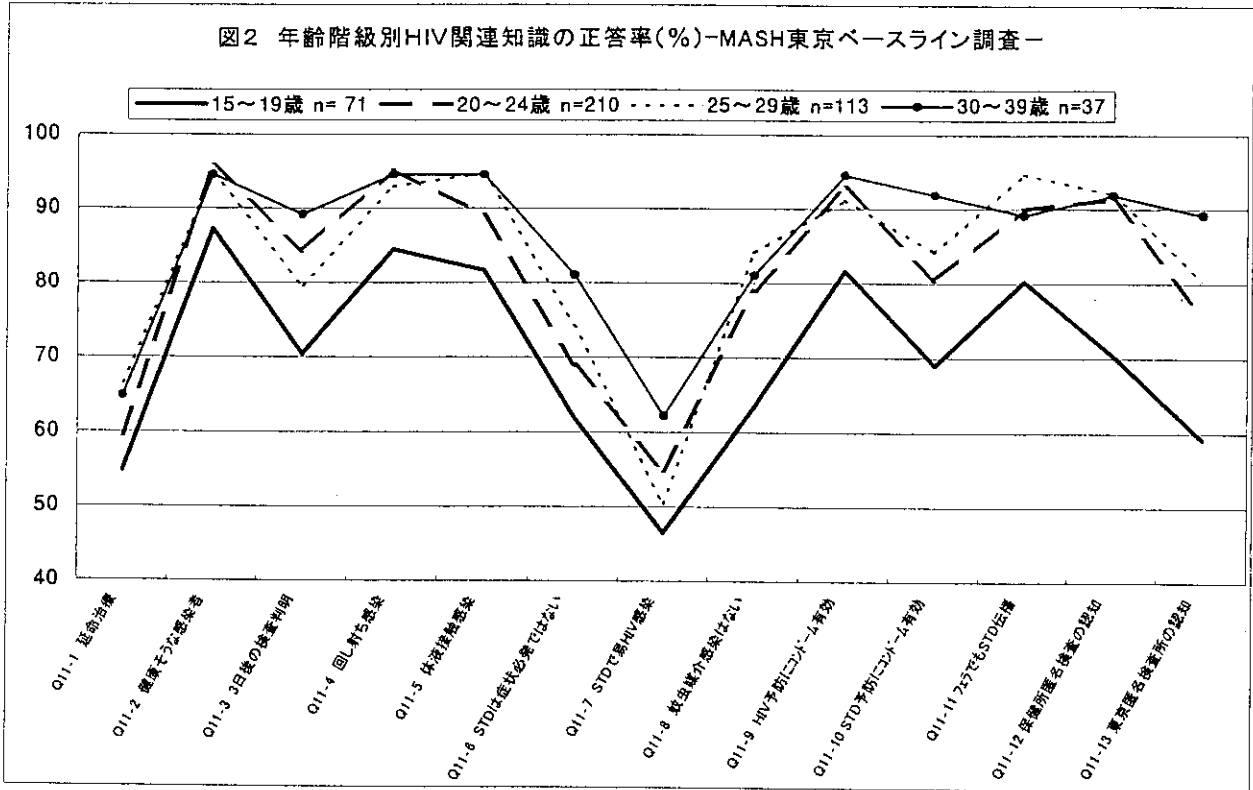
バー、クラブ、ハッテン場等の施設利用は、年齢層で異なっていた。クラブイベントでの調査であったため、ゲイバーおよびクラブ(ゲイナイトを含む)の利用率はどの年齢層も90%であった。しかし、サウナ系ハッテン場は30歳代48.6%に比べて、20-24歳15.6%、15-19歳4.6%と若年層ほど低かった。15-19歳層では、マンション系ハッテン場16.9%、ビデオBOX系ハッテン場21.5%とサウナ系ハッテン場に比べてこれらの施設の利用率が高かった。従って、施設を介しての予防介入では施設によって利

用する年齢層が異なることを考慮することが必要とも思われる。

3) HIV/STD 関連知識および情報源について

HIV/STD 関連知識についての正答率は、全体としては「近年の延命治療効果」「STD 感染では症状が必ずでる」「STD 感染は HIV に感染しやすい」「STD 予防へのコンドームの有効性」「東京の匿名検査所の認知」などが低率であった(図 2)。15-19 歳層ではいずれの知識についても他の年齢層に比べて正答率が低く、中でも「近年の延命治療効果(54.9%)」「HIV 検査までのウインドウ期(70.4%)」「STD 感染では症状が必ずでる(62.0%)」「STD 感染は HIV に感染しやすい(46.5%)」「STD 予防へのコンドームの有効性(69.0%)」「東京の匿名検査所の認知(59.2%)」は極めて低い。「HIV 感染予防へのコンドームの有効性」は 20 歳以上の年齢層では 90%を超えているのに対して 15-19 歳層は 81.7%であった。

HIV/AIDS に関する情報源は、ゲイ雑誌が 47.3%と多く、情報伝達媒介としての有効性が示唆された(図 3)。しかし、15-19 歳層では 31.7%と低く、これらの層への情報媒体の開発が必要と思われる。



4) 性行動について

これまでのセックスパートナーとしては、「彼氏など特定の相手」が 85.8%と最も多く、次いで「ハッテン場で出会った人」49.4%、「ネットで知り合った人」24.4%、「バーで出会った人」22.3%、「伝言・文通欄の人」11.6%であった。セックスパートナーとの出会いの場としては、ハッテン場、バーなどの施設が多いが、インターネット等の情報通信を介したものも多い。「ハッテン場で出会った人」の回答は、15-19 歳層の 25.4%に対して 20 歳代では 50%を超え、30 歳代では 64.9%と年齢層で差異があった。一方、ネット等の情報通信での出会いは年齢層による変化は無かった。

15-19 歳層の特徴としては「ハッテン場で出会った人」25.4%、「ネットで知り合った人」22.5%であった。

過去 6 ヶ月のフェラチオ経験についてみると、「特定の人とした」84.2%、「特定の人にされた」61.3%、「不特定の人とした」66.1%、「特定の人にされた」48.5%であった（表 1）。また、フェラチオ時にコンドームを必ず使用した者は、「特定の人とした」時が 2.2%、「特定の人にされた」時が 1.5%、「不特定の人とした」時が 4.3%、「特定の人にされた」時が 4.9%で、極めて低率であった。フェラチオ時のコンドーム使用率は特定相手との場合では年齢差がなかったが、不特定相手との場合では 30 歳代がやや高率に使用していた（表 1）。

アナルセックスは、「特定の人とした」46.1%、「特定の人にされた」30.7%、「不特定の人とした」40.0%、「特定の人にされた」24.5%であった（表 2）。また、フェラチオ時にコンドームを必ず使用した者は、「特定の人とした」時が 34.9%、「特定の人にされた」時が 32.3%、「不特定の人とした」時が 41.7%、「特定の人にされた」時が 40.2%であった。しかし、15-19 歳層では、アナルセックス時にコンドームを必ず使用するの回答率が特定相手との場合で 10%台、不特定相手との場合でも 24%程度で、他の年齢層に比べて極めて低いことが示された。コンドームを全く使わない割合も 15-19 歳層が高く、年齢が 20 歳代、30 歳代となるにつれて高率になっていた（表 2、図 4、5）。

表 1 年齢階級別フェラチオ時のコンドーム使用 -MASH 東京ベースライン調査-

	年齢階級				合計 (%)	p値
	15~19 (%)	20~24 (%)	25~29 (%)	30~39 (%)		
	71 (16.5)	210 (48.7)	113 (26.2)	37 (8.6)	431 (100)	
特定の人とフェラした 特定FLした時のコンドーム	61 (87.1)	176 (85.9)	90 (80.4)	30 (81.1)	357 (84.2)	0.49538
全く使わない	44 (72.1)	131 (74.4)	67 (74.4)	20 (66.7)	262 (73.4)	
ほとんど使わない	4 (6.6)	15 (8.5)	7 (7.8)	3 (10.0)	29 (8.1)	0.56178
半々で使う	6 (9.8)	19 (10.8)	12 (13.3)	3 (10.0)	40 (11.2)	0.74997
ほぼ使用する	1 (1.6)	3 (1.7)	1 (1.1)	0 (0.0)	5 (1.4)	
必ず使用する	2 (3.3)	2 (1.1)	1 (1.1)	3 (10.0)	8 (2.2)	
無回答	4 (6.6)	6 (3.4)	2 (2.2)	1 (3.3)	13 (3.6)	
不特定の人とフェラした 不特定FLした時コンドーム	44 (63.8)	140 (67.3)	72 (64.3)	25 (69.4)	281 (66.1)	0.88556
全く使わない	28 (63.6)	97 (69.3)	48 (66.7)	12 (48.0)	185 (65.8)	
ほとんど使わない	2 (4.5)	12 (8.6)	6 (8.3)	4 (16.0)	24 (8.5)	0.00494
半々で使う	8 (18.2)	22 (15.7)	12 (16.7)	3 (12.0)	45 (16)	0.05771
ほぼ使用する	0 (0)	2 (1.4)	0 (0)	0 (0.0)	2 (0.7)	
必ず使用する	2 (4.5)	2 (1.4)	2 (2.8)	6 (24.0)	12 (4.3)	
無回答	4 (9.1)	5 (3.6)	4 (5.6)	0 (0.0)	13 (4.6)	

20代前半と30代:p=0.06268, 20代後半と30代:p=0.12653

表2 年齢階級別アナル・セックス時のコンドーム使用 -MASH 東京ベースライン調査-

	年齢階級				合計 (%)	p値
	15~19 (%)	20~24 (%)	25~29 (%)	30~39 (%)		
	71 (16.5)	210 (48.7)	113 (26.2)	37 (8.6)	431 (100)	
特定の人と7ナルした 特定Aした時コンドーム	32 (45.7)	88 (43.3)	50 (44.2)	25 (67.6)	195 (46.1)	0.05405
全く使わない	14 (43.8)	20 (22.7)	11 (22.0)	3 (12.0)	48 (24.6)	
ほとんど使わない	2 (6.3)	5 (5.7)	2 (4.0)	0 (0.0)	9 (4.6)	0.11574
半々で使う	8 (25)	17 (19.3)	13 (26.0)	3 (12.0)	41 (21.0)	0.00438
ほぼ使用する	3 (9.4)	8 (9.1)	5 (10.0)	6 (24.0)	22 (11.3)	
必ず使用する	5 (15.6)	33 (37.5)	18 (36.0)	12 (48.0)	68 (34.9)	
無回答	0 (0)	5 (5.7)	1 (2.0)	1 (4.0)	7 (3.6)	
10代と30代: p=0.00648, 10代と20代前半: p=0.06707, 10代と20代後半: p=0.12792						
不特定の人と7ナルした 不特定Aした時コンドーム	25 (35.7)	79 (38.9)	45 (40.5)	19 (52.8)	168 (40.0)	0.37681
全く使わない	8 (32.0)	16 (20.3)	7 (15.6)	0 (0)	31 (18.5)	
ほとんど使わない	1 (4.0)	4 (5.1)	0 (0)	1 (5.3)	6 (3.6)	0.14756
半々で使う	8 (32.0)	13 (16.5)	12 (26.7)	2 (10.5)	35 (20.8)	0.01339
ほぼ使用する	2 (8.0)	8 (10.1)	6 (13.3)	4 (21.1)	20 (11.9)	
必ず使用する	6 (24.0)	34 (43.0)	18 (40.0)	12 (63.2)	70 (41.7)	
無回答	0 (0)	4 (5.1)	2 (4.4)	0 (0)	6 (3.6)	
10代と30代: p=0.01381						

図4 過去6ヶ月間の特定の相手とアナルセックスされたときのコンドームの使用頻度(年齢階級別)
-MASH東京ベースライン調査-

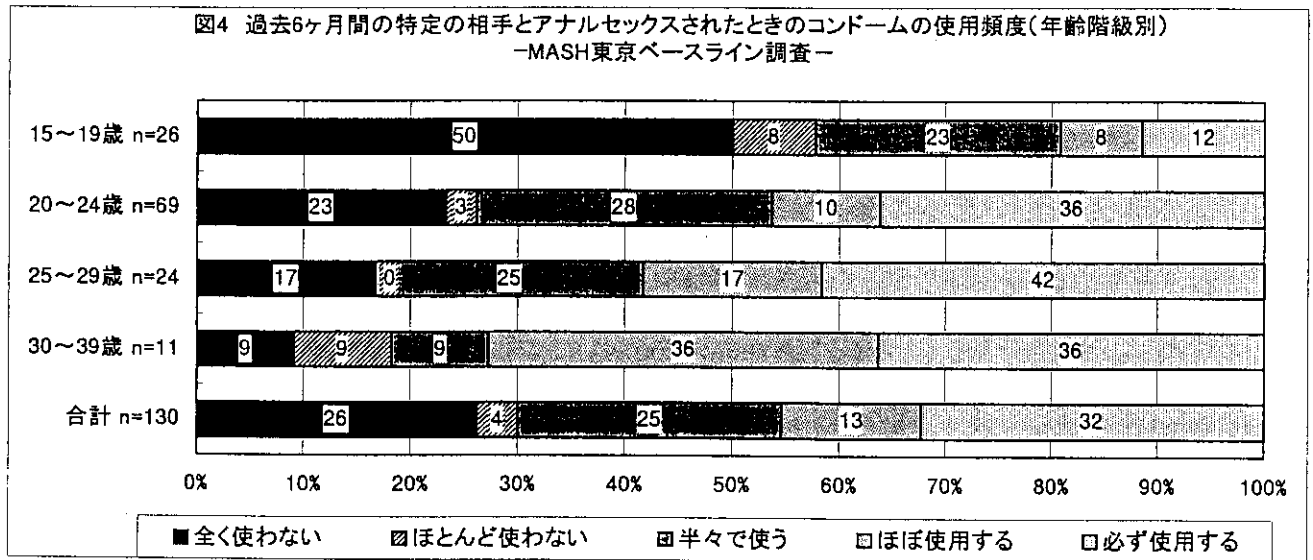
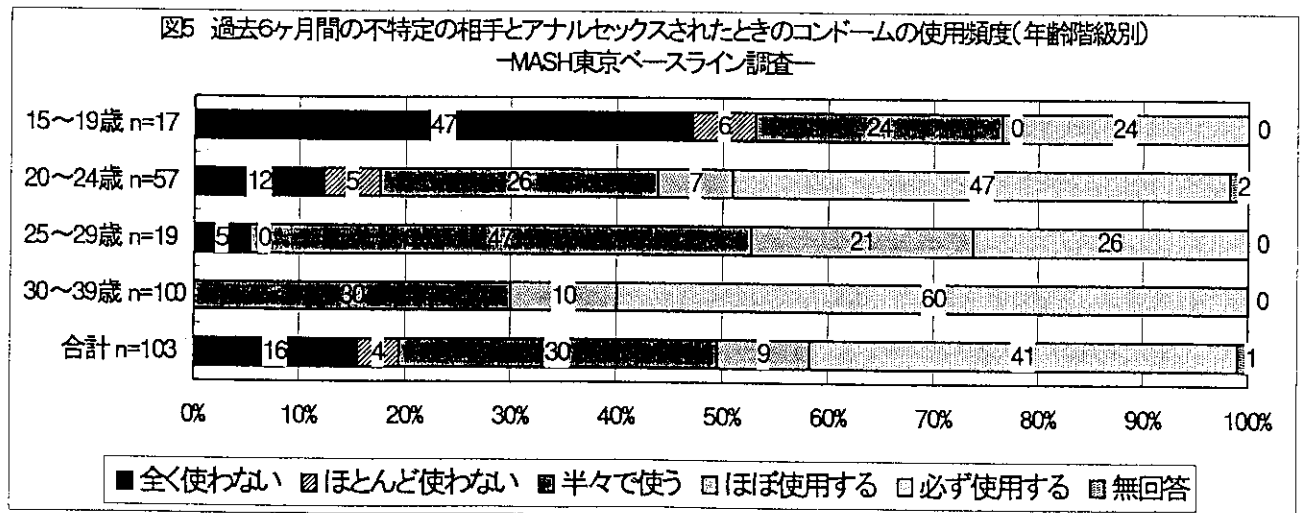


図5 過去6ヶ月間の不特定の相手とアナルセックスされたときのコンドームの使用頻度(年齢階級別)
-MASH東京ベースライン調査-



5)コンドームに対するイメージについて

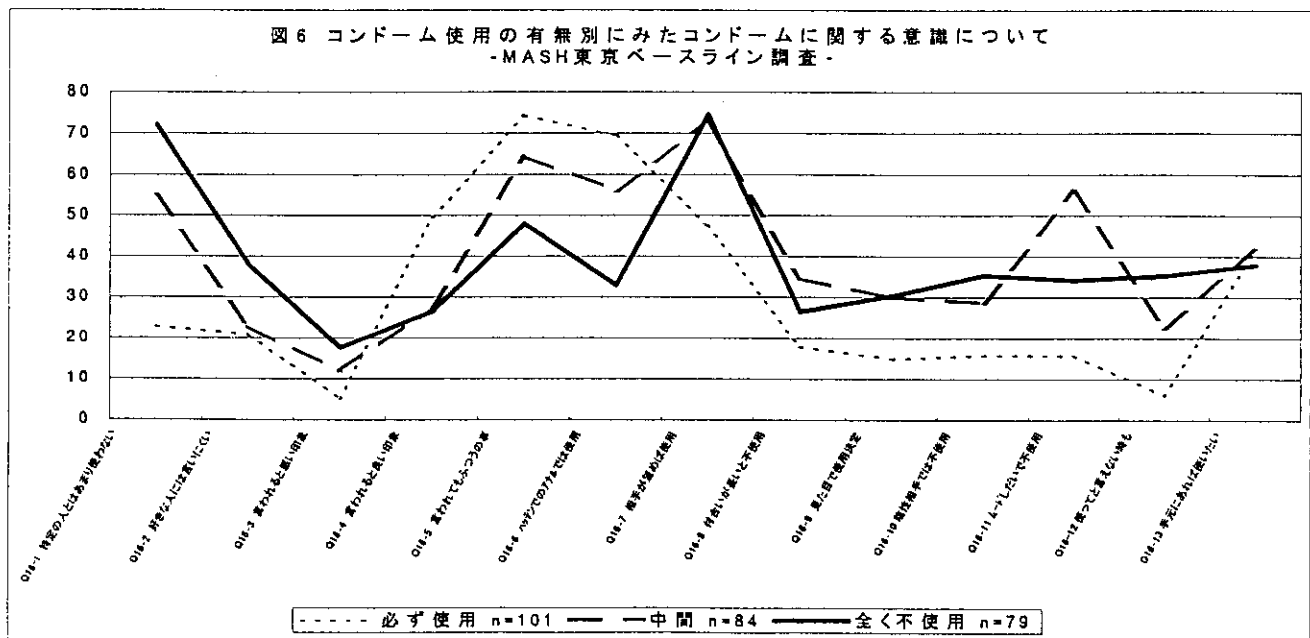
コンドーム使用に対するイメージは年齢層によって差異が見られた(表3)。特定の人とのコンドーム使用は若年層になるほど「使わない」の回答率が高く、「好きな人には使ってと言にくい」「使ってと言えないときもある」「HIV 陰性相手では不使用」「ムードしだいで不使用」なども若年層ほど高率になっていた。一方で、使ってといわれた時の印象では、「よい印象」が15-19歳層は他の年齢層に比べて低く、「普通のこと」の回答率もやや低い傾向にあった。ハッテン場でのアナルセックス時のコンドーム使用については15-19歳層が最も低い回答率で、これらの若年層ではコンドーム使用に対する意識は低い様に思われる。

アナルセックス時のコンドーム使用の有無別に分類してコンドーム使用へのイメージを分析したところ、コンドーム必ず使用群に比べて、全く使用しない群は「特定の人とはコンドームを使わない」「好きな人には使ってと言にくい」「使ってと言えないときもある」「HIV 陰性相手では不使用」「ムードしだいで不使用」などが高率であった。また、使ってといわれた時の印象でも「悪い印象」が高く、「良い印象」「普通のこと」は低率であった(図6)。

全てのセックスが必ずしもコンドームを必要とするものではないが、手元があれば使いたい回答はMSM全体で41%であった。この回答はコンドームを全く使用しない群もほぼ同率で、年齢層による差異もなかった。手の届くところにコンドームを用意しておくことが、コンドーム使用を容易にするきっかけになるものと思われる。

表3 コンドーム使用に対するイメージ -MASH 東京ベースライン調査-

	年齢階級				合計 (%)	p値
	15~19 (%)	20~24 (%)	25~29 (%)	30~39 (%)		
	71 (16.5)	210 (48.7)	113 (26.2)	37 (8.6)	431 (100)	
特定の人とはあまり使わない	31 (43.7)	69 (32.9)	47 (41.6)	8 (21.6)	155 (36.0)	0.055
好きな人には言いにくい	24 (33.8)	55 (26.2)	23 (20.4)	6 (16.2)	108 (25.1)	0.116
言われると悪い印象	9 (12.7)	20 (9.5)	12 (10.6)	2 (5.4)	43 (10.0)	0.673
言われると良い印象	13 (18.3)	78 (37.1)	44 (38.9)	12 (32.4)	147 (34.1)	0.018
言われてもふつうの事	37 (52.1)	136 (64.8)	68 (60.2)	22 (59.5)	263 (61.0)	0.298
ハッテンでのアナルでは使用	25 (35.2)	94 (44.8)	56 (49.6)	18 (48.6)	193 (44.8)	0.272
相手が望めば使用	46 (64.8)	137 (65.2)	67 (59.3)	18 (48.6)	268 (62.2)	0.228
付き合いが長いと不使用	11 (15.5)	53 (25.2)	29 (25.7)	7 (18.9)	100 (23.2)	0.305
見た目で使用決定	16 (22.5)	47 (22.4)	23 (20.4)	4 (10.8)	90 (20.9)	0.441
陰性相手では不使用	20 (28.2)	55 (26.2)	24 (21.2)	5 (13.5)	104 (24.1)	0.270
ムードしだいで不使用	24 (33.8)	58 (27.6)	32 (28.3)	9 (24.3)	123 (28.5)	0.711
使ってと言えない時も	19 (26.8)	42 (20.0)	12 (10.6)	4 (10.8)	77 (17.9)	0.020
手元があれば使いたい	24 (33.8)	84 (40.0)	39 (34.5)	13 (35.1)	160 (37.1)	0.688



6) HIV 検査の受検行動について

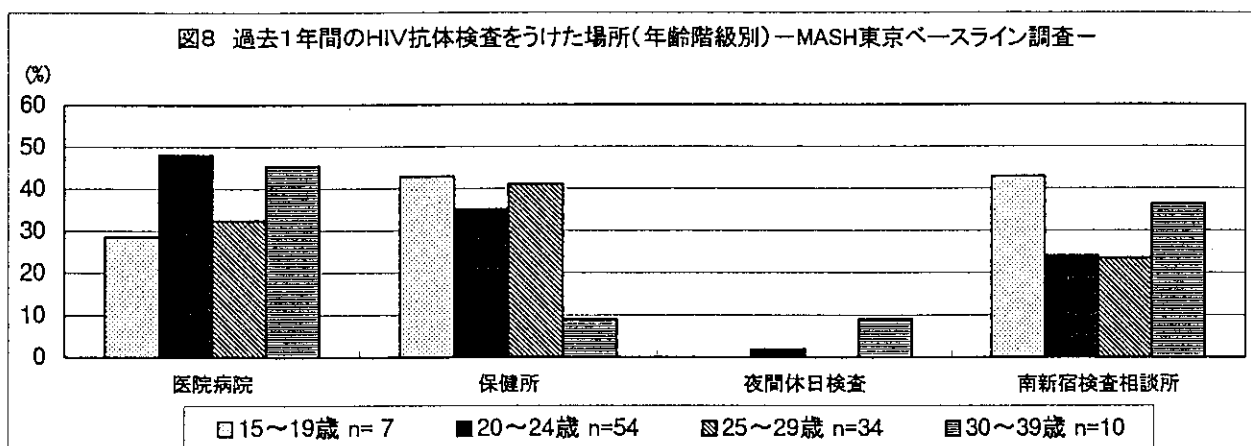
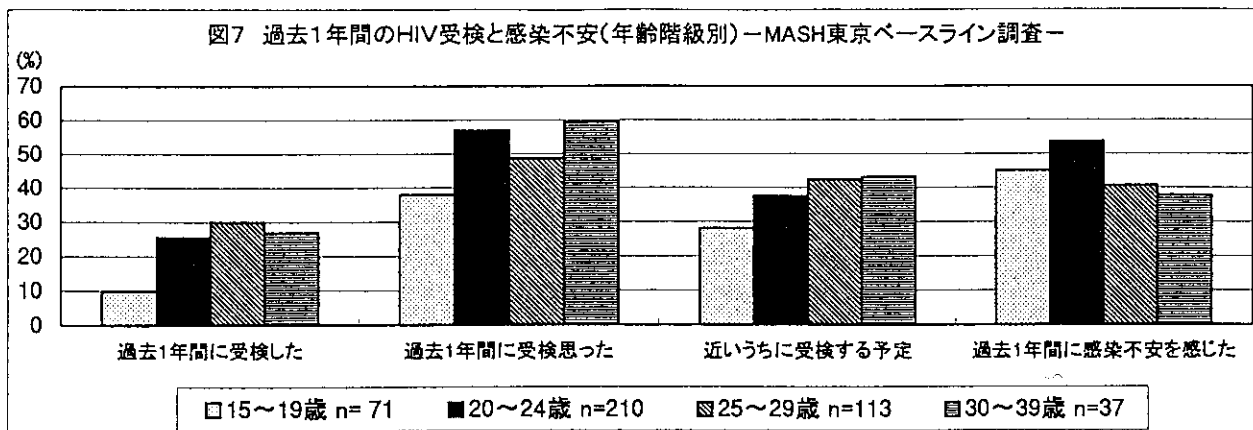
過去1年間の HIV 検査受検率は MSM468 人中 144 人 (24.4%) であった (表 4)。年齢階級別では 20 歳以上の年齢層が 25%–30% であったのに比べて 15–19 歳層は 9.9% と低い受検率であった。また、過去 1 年間に受検しようと思った者の割合、近い内に受検を予定している者の割合も 15–19 歳層は低い (各々 38%、28%、図 7)。15–19 歳層は過去 6 ヶ月のセックス経験率が他の年齢層に比べてやや低いものの、コンドーム使用状況は低率であり、コンドーム使用への意識も低いことを先の性行動分析で示した。過去 1 年間に感染不安を感じた者は 40–50% で、年齢による差異は見られておらず、15–19 歳層でも HIV/STD 感染リスクは他の年齢層と同程度に感じているものとする。これらの層にフォーカスした感染リスク低減化への啓発プログラムが必要であるとする。なお、エイズへの関心も 15–19 歳層は 64.8% で他の年齢層 (80% 強) に比べて極めて低い結果である。

HIV 検査の受検場所は全体では医院・病院が 41.5% で最も高くついで保健所 34.9%、南新宿検査相談所が 26.4% であった。しかし、年齢別にみると 15–19 歳層は医院・病院が 28.6% で保健所、南新宿相談所が 42.9% と同率であった (図 8)。このことは、保険証が必要な医院・病院にはこれらの年齢層は行きにくく、そのために保健所、南新宿相談所が利用されているものと思われる。また、30 歳代で保健所の利用が他の年齢層に比べて極めて低いことは、勤務との関係で保健所は利用しにくいものと思われる。MSM を対象にした HIV 検査環境としては、これらのことから、夜間、休日、保険証を必要としない匿名検査が望ましいものとする。また、MASH 東京のこれまでの定例会でもゲイフレンドリーな医療機関、検査機関が少ないことがあげられ、保健・医療環境を開拓することも必要とする。

南新宿検査相談所は、夜間に受検できること、新宿駅に近いことなどから MSM にとっては有用な検査機関といえる。その利用者へのアンケート調査からはゲイ雑誌への広告、友人口こみ等で南新宿検査相談所の情報を得ていることが報告されている。今回のベースライン調査からは、南新宿検査相談所の場所を認知しているものは、全体で 25.5% で、15–19 歳層では 4.2% であった。15–19 歳層は東京以外の居住地のものが半数いること、ゲイ雑誌をエイズの情報源と回答した割合が低かったことなどが、この認知率の年齢差となったものと思われる。

表 4 HIV 検査、受検意識、感染不安について

	年齢階級				合計 (%)	p 値
	15~19 (%)	20~24 (%)	25~29 (%)	30~39 (%)		
	71 (16.5)	210 (48.7)	113 (26.2)	37 (8.6)	431 (100)	
過去1年のHIV受検あり	7 (9.9)	54 (25.7)	34 (30.1)	10 (27.0)	105 (24.4)	0.014
受検場所(複数回答)						
医院病院	2 (28.6)	26 (48.1)	11 (32.4)	5 (45.5)	44 (41.5)	0.438
保健所	3 (42.9)	19 (35.2)	14 (41.2)	1 (9.1)	37 (34.9)	0.260
夜間休日検査	0 (0)	1 (1.9)	0 (0)	1 (9.1)	2 (1.9)	0.275
南新宿検査相談所	3 (42.9)	13 (24.1)	8 (23.5)	4 (36.4)	28 (26.4)	0.608
MASH大阪SWITCH2000	0 (0)	1 (1.9)	0 (0)	0 (0)	1 (0.9)	0.807
海外	0 (0)	1 (1.9)	1 (2.9)	0 (0)	2 (1.9)	0.907
その他の検査所	0 (0)	0 (0)	1 (2.9)	0 (0)	1 (0.9)	0.544
過去1年の受検意志ある	27 (38.0)	120 (57.1)	55 (48.7)	22 (59.5)	224 (52.0)	0.108
近いうちの受検意志ある	20 (28.2)	79 (37.6)	48 (42.5)	16 (43.2)	163 (37.8)	0.231
過去1年間の感染不安あり	32 (45.1)	113 (53.8)	46 (40.7)	14 (37.8)	205 (47.6)	0.183
周囲に患者の存在あり	7 (9.9)	41 (19.5)	22 (19.5)	10 (27.0)	80 (18.6)	0.138
エイズへの関心あり	46 (64.8)	174 (82.9)	95 (84.1)	31 (83.8)	346 (80.3)	0.019
関心のある理由(複数)						
感染不安の経験から	28 (60.9)	110 (63.2)	50 (52.6)	22 (71.0)	210 (60.7)	0.219
感染する可能性あるから	39 (84.8)	136 (78.2)	72 (75.8)	26 (83.9)	273 (78.9)	0.567
感染者が身近だから	6 (13.0)	35 (20.1)	14 (14.7)	8 (25.8)	63 (18.2)	0.359
テレビの印象	26 (56.5)	72 (41.4)	24 (25.3)	12 (38.7)	134 (38.7)	0.003
教育効果ため	17 (37.0)	32 (18.4)	12 (12.6)	4 (12.9)	65 (18.8)	0.004
その他の関心理由	1 (2.2)	5 (2.9)	5 (5.3)	1 (3.2)	12 (3.5)	0.721



(考察・まとめ)

1) ニーズアセスメントとしてのベースライン調査対象の属性

厚生省エイズ動向調査では現在 20 歳、30 歳に相当する年代層の HIV 感染報告例が増加しており、特に 20 歳代で著しいことが示されている。本ベースライン調査は MSM を均一に代表するものとは言えないが、回答者の年齢分布から 15-29 歳の MSM についてのニーズが把握できたものとする。また、MASH 東京はゲイタウンである新宿 2 丁目を啓発の対象地域として計画しており、今回の回答者の 70% が同地域に月に 2-3 回以上訪れる者であったことから、同様の調査を今後も継続することで、MASH 東京の啓発介入の効果評価が可能と思われる。

2) ベースライン調査からのニーズについて

(1) 15-19 歳層への予防啓発の重要性

本調査からは、15-19 歳層で HIV/STD 関連の知識も低く、過去 6 ヶ月のセックス経験者で HIV/STD 感染予防行動が低いことが示され、現在の若年層での HIV 感染の増加傾向からもこれらの若い年齢層への早急な啓発が必要である。また、セックスパートナーともなりうる 20、30 歳代への予防啓発も重要と考える。

(2) ニーズ・アセスメント

HIV/STD 感染予防を進めていく上でのニーズを、どこで、誰に、何を、どのようにして、いつから、の視点で整理した。

○どこで/誰に/:

ゲイバー/クラブ：全年齢層

サウナ系ハッテン場：25-30 歳代層での利用が高く、セックスパートナーとの出会いも多い

マンション系/ビデオ BOX 系ハッテン場：15-24 歳代での利用が高い

ゲイ雑誌：HIV/STD 関連の情報源として利用が高い

インターネット：セックスパートナーの出会いの場として利用が高い、特に 15-19 歳層。

○何を:

HIV/STD 関連情報:

「延命治療効果など HIV/STD の治療に関する情報」

「STD の感染リスクと予防方法に関する情報」

「STD 感染と HIV 感染のリスク関連に関する情報」

「STD 予防へのコンドームの有効性」

「東京の匿名検査所に関する情報」

HIV/STD 感染リスク低減化（セーフターセックス）とコンドームイメージ・チェンジ:

アナルセックスでコンドームを全く使用しない者は、「好きな人には使ってと言にくい」

「使ってと言えないときもある」「HIV 陰性相手では不使用」「ムードしだいで不使用」などが

高率で、また、使ってといわれた時の印象も「悪い印象」が高く、「良い印象」「普通のこと」は低率。

HIV/STD 検査と健康管理/検査機関に関する情報

過去 1 年間に感染不安を感じた者は年齢による差はなく、およそ半数にのぼる。

15-19 歳層はコンドーム使用が低率であるにも関わらず、過去 1 年の HIV 受検率 (9.9%) が低く、過去 1 年間に受検しようと思った、近い内に受検を予定している割合も低い (各々 38%、28%)。

15-19 歳層への情報媒体の開発

南新宿検査相談所の場所認知は全体で 25.5%、15-19 歳層では 4.2%。

ゲイ雑誌に加えて若い年齢層への情報伝達媒体を開発することが必要。

○どのようにして:

コンドームの入手を容易にする:

手元があれば使いたいという回答率は全体で 41%、手の届くところにコンドームを用意しておくことが、コンドーム使用を容易にするきっかけとなるものと思われる。

特に、15-19 歳層がコンドームを入手しやすい環境を作る。

楽しいコンドームの着け方の開発:

15-19 歳層でコンドーム使用に対する意識が低い。わが国では中・高校でコンドームの着け方などの教育がなされず (特に男性には)、この年齢層に対して楽しいコンドームの着け方を広めていくことが必要と思われる。

HIV 検査環境の開拓:

医院・病院: 保険証が必要なために 15-19 歳層利用しにくい。

保健所・南新宿検査相談所: 30 歳代は勤務との関係で利用しにくい。

ゲイフレンドリーな医療機関、検査機関が少ないために受検、受療を躊躇する。

夜間、休日、保険証を必要としない匿名検査。

○いつから:

エイズ動向調査への HIV 感染報告例の状況や本研究グループの M 検査機関での HIV 陽性者に占める同性間感染者の割合 (およそ 90%) の状況からみて、東京地域での効果的な HIV 感染予防介入は速やかに行なうことが望まれる。

今後、さらに分析を加えることで新たなニーズについても MASH 東京スタッフミーティングに提示し検討していきたいと考える。